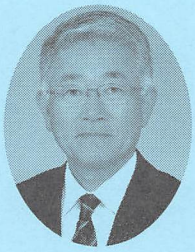
館報緑岡

第44号
発行
平成27年2月25日
緑岡高等学校
図書委員会



私の一冊

校長　高瀬宏樹

近年、読書の効用について、科学的に解明しようとする研究が進んでいます。ある教育研究所が、小学生10人に童話を2分間、声を出して読ませ、その後、記憶力テストを受けるという実験を行いました。すると、本を読んだ後では、テストの結果が、何もしなかった時より1～2割アップするという結果となりました。

私たちは日頃、さまざまなことで頭を働かせています。脳科学者である東北大学の川島隆太教授は、読書をした時に頭のどの部分が、どのように働くかを研究しています。学生たちに「明日の予定を考える」「トランプゲームをする」「本を読む」など100種類以上の課題に取り組んでもらい、fMRIという機械で脳内の磁場の変化を調べます。画面に脳の働いている部分は赤く映し出されます。その結果、驚くほど広範囲に広がったのは、「明日の予定を考える」「トランプゲームをする」ではなく、「本を読む」時だったそうです。

川島教授は、読書の力を「本を読むと『前頭前野』という脳の前部が強く活性化される。この部分は、注意力やコミュニケーションなどを担う部分なので、鍛えれば注意力が増し、情緒豊かになる」と説明しています。読書は、従来から言われているように、知識を深め、人間性を高めるような効用を持っています。しかし、科学のメスは、経験的な読書の効用から、数歩も進めて、脳への影響があることを明らかにしました。

読書が、自分自身の成長へ欠かせないものである事についても考えてみましょう。高校生になると、先生からも、周りの人たちからも、「自分の考えを持って事にあたれ」と言われます。自分の考えを持ち、いろいろな活動を通して自分を創っていこうとすれば、必ず周りとの摩擦が生じることが出てきます。失敗もするでしょうし、思わぬ恥をかくこともあります。そのことは、何ら悪いことではありません。むしろ、そうしたことを数多く体験しなければ、今の自分から脱皮して大きく成長することはできないのだと思います。その時、頼りになるのは何といっても友だちです。友だちと相談することによって、解決することがほとんどかもしれません。けれども、本当に大切なこと、自分が真剣に考えていることについては「自分と気の合う友だちとは違う人、質の異なるもの、偉大なもの、自分よりはるかに優れているもの、長い歴史のあるもの」から学ぶことが大切です。自分を創るというのは、言い換えれば「自分より大きな壁にぶつかり、それを乗り越える。自分とは違ったものから学び取る」ことです。壁を乗り越えるたびに、前の自分とは違った自分を発見することができるのです。

本というのは、それを書いた人が、真剣に努力した結果に得た知恵の結晶ですから、皆さんの今までの世界とは全然違うものです。自分より優れたもの、自分の世界とは違うものを素直に認め、そこから学ぶためにも読書は必要なのだと思います。

さて、皆さんに今回紹介したい本は、『マネジメント[エッセンシャル版]基本と原則』(P・F・ドラッカー著　ダイヤモンド社)です。なぜ高校生に経営学の本を薦めるのかと思うかもしれません。私自身も初めからこの本に出会った訳ではありませんでした。実は、2009年に発売され、当時、累計270万部を売り上げてベストセラーになった『もし高校野球のマネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』(岩崎夏海著、通称『もしドラ』)をきっかけに、P・F・ドラッカーという人物を知りました。この『もしドラ』は、アニメ化、映画化もされて、ビジネスマンだけでなく若い学生の間にも、ドラッカーブームともいえる社会現象を巻き起こしました。皆さんも知っている人も多いのではないかと思います。『もしドラ』の主人公である高校野球のマネージャーみなみが甲子園行きを目指す物語で、野球部のマネジメントのテキストに使ったとされるのが、この『マネジメント』[エッセンシャル版]ということです。

マネジメントとは、日本語に訳すと「経営管理」、企業や組織を運営していく方法を指します。しかし、ドラッカーの『マネジメント』には、他の経営学の本やビジネス書とは大きく異なる部分があります。それは「なぜマネジメントをするのか?」すなわちマネジメントの目的や役割について最初に詳しく触れられている点です。ただの経営学の本ではなく、人と人が一緒に働くことの喜びや社会的存在としての人間の幸せの意味など、普遍的なことが多く書かれています。根底には「人間の本当の幸せとは何か?」という大きな命題が横たわっています。それをふまえた上で、よりよい社会をつくっていくための組織や企業の在り方について書かれています。内容は大きく分けると三部構成からなり、最初にマネジメントの「使命」が述べられ、その後にマネジメントの「方法」と「戦略」が述べられています。

『もしドラ』を読んでドラッカーに少しでも興味を持った人は、ぜひ本家であるドラッカーが書いた『マネジメント』にチャレンジしてみてください。経営についての専門分野については、多少、難解な部分があるかもしれませんが、そういう所は、読み飛ばしてもよいと思います。今は理解できなくても、のちのち自分が成長していけば、理解できる部分になってくると思います。「自分が何のために勉強しているか分からない」「働くことに希望が見いだせない」などと悩んでいる人にとっては、何かヒントを与えてくれる本だと思います。

イギリスの哲学者フランシス・ベーコンは「読書は充実した人間をつくり、会話は機転の利く人間をつくり、執筆は緻密な人間をつくる」と言っています。皆さんが、読書好きになり、図書館の貸し出し総数が増えることを期待しています。